

夢サラダ Vol.57

2014.7.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者:(特非)今治NPOサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234
E-mail imanpo@nifty.com

持ち味いかして まちを元気に！
人をいかすボランティア活動
のすすめ

「ボランティアが来ない」という団体の嘆き、「期待されていない」からやめたというボランティアの声…。立場や状況の違いから起こる行き違いで悩むケースも少なくない。去る4月12日(日)・今治市総合福祉センターで開催した講座では、今治市を舞台に若者が活躍する3事例を通して、ボランティアのニーズを満たす場づくりの秘訣を学んだ。

●「可能性が花咲く3つの現場レポート」●



▲子どもの絆プロジェクト

福島の子ども達を自然豊かな愛媛で受け入れる活動をしている。地域の人とのふれあいをベースにした活動は、プログラム作りから学生ボランティアが担う。連鎖的にボランティアが集まるしかけがある。



▲エフエムラジオバリバリ

情報発信に留まらず、まちを元気づける拠点と捉え、まちの元気の源＝市民の参画は必須。100名超のボランティアパーソナリティ、内3割は開局当初から参画。



▲さくらんぼの会

頼れるリーダーとの信頼関係の中、自分たちで決め、責任も分担しながら現場を回す高校生たち。「難しい」「かたい」という彼らのボランティア感を変えたのは、プログラムの面白さ。

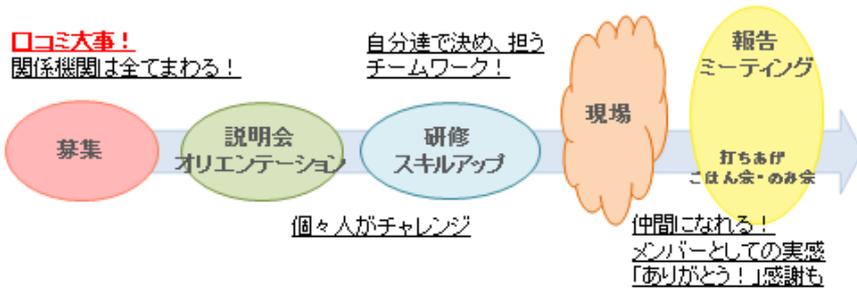
●初めから最後まで「参加」できるしかけ



3団体共通の「人をいかすセオリー」: 募集から打上までが一連の流れ

□コミ大事!
関係機関は全てまわる!

自分達で決め、担う
チームワーク!



一歩間違えば「烏合の衆」になりがちなボランティア。3事例が「成長の場」、「新しい視点を生む場」となっているのは、①募集段階、②活動経過段階、③活動終了段階に一貫してマネジメントがあるから!



3団体共通の「人をいかすセオリー」 : 団体の使命(ミッション)への共感

●市民活動の向かう先…未来へ

団体の内部の人と、外部からの応援者(ボランティア)は立場は違えど、同じ目的に向かう仲間になることが大事!

キーワードは「対等性」

大切なことは相互理解。コーディネーターは、ボランティアに「任せ」つつ、何か困っている時に「調整」する動き＝フォローアップができる推進者です!



参加者の声…

- 工夫された発表から、ボランティアの定義が明確になった。
- 調整者・盛り上げる人もいることが分かった。
- 会場の皆とボランティアの楽しさを分かち合えた。
- 高校生等の若い人が考えている…うれしかった。
- 若者中心…。子育て後等に参考になる話も欲しかった。

「ありがとう」がうれしい

役にたてる!

不安…仲間、リーダーがいる!大丈夫!

つらいこともでもたのしい!

主役はボランティア! チームワークで未来を by 子どもの絆PJ 青野氏

信頼してまかせると、おもしろいものが… つまづいた時はフォローを! by さくらんぼの会 渡辺氏

人と人をつなぐ! 交流できるメニューを工夫! by FMラジオバリバリ 宇佐美氏

団体内部に必要なこと
・受け入れる風土 &
・コーディネーター

◇ 輝く二人 ◇

近藤まゆみさん

下の子の発達がゆ、く、で同じ年の子より手がかる。向き合っていると、上の子に寂しい思いをさせてしまう。そんな悩みを抱えながら子育てに、辛い時もあった。そんな



時、話を聞いてもらい、支えられた。話を聞くことで、不安に感じた。悩みは多岐にわたる。抱える課題もそれぞれだが、集い、語ることで子育て中のママがリフレッシュできる。この団体を立ち上げた。日々、前向きになれるような「子育て講座」、音楽を通して輪を拓く「音楽交流会」、アドバイザーをお招きして子育て相談、座談会等を主宰する。子育て中の悩み、自分も向き合っているから、「何かできることはないか」と思い立ち、17年4月に結成したばかりということもあり、あらゆること、手探り状態であった。同時に彼女はその中で「大事なことを2つ学んでいた。1つは子育ては1人では無理で、助けを借りてやるということ。もう1つは、母親が自分の子どものいいところを分かちあげることが何より大事であること。

子育てグループ「ひなたぼっこ」

子育てグループ「ひなたぼっこ」は、代表の近藤まゆみさんのもと、

2012年4月に結成された団体である。主な活動は、ママたちのおしゃべり会、子育て講座、音楽療法士による

交流会、預て相談、座談会など、

ママたちがリフレッシュできるような

活動をしている。



子育てグループ「ひなたぼっこ」代表 近藤まゆみ
tel. 090-7143-0105 e-mail. hinatabocoboco@gmail.com

近藤美和子さん

子どもの動きに合わせて音を選ぶ。一人一人の気持ちに寄り添うように音を奏でる。ただ、音を出せばいいのではない。音に人の想いをのせていく。それが音楽療法士だ。全国で2000人程、今治市には唯一の音楽

療法士が近藤美和子さんだ。彼女が向き合うのは、様々な病気や障がいを持つ子ども達。「謙のヤリコが難しい発達だからこそ、音と子どもはつながる瞬間はとても感動し、嬉しい。」と語り、

確かに美和子さんの息づかいや、出す音に合わせて子ども達が体を動かしたり、表情を変えたりする瞬間があった。子ども達は少しづつではあるが確実に変化していく。楽器演奏ができるようになった。時には言葉も発した。その子ども達の変化にお母さん達が気づくことが大切なのである。



編集後記

「音楽療法士」というワードに興味をもったのがきっかけで取材先に選んだ。取材先では子ども達が生き生きと音楽によって楽器を演奏したり、音楽療法士の近藤美和子さんの動きに合わせて体を動かしたりしてとても楽しそうだった。音楽の力はとてもすごいものだと強く感じた。

杉村幸一

竹井李樺子

川崎琴実



地域と歩む

しまなみ海道周辺を守り育てる会とは？

地域をよりよくするため…そんな紹介がぴったりの団体がある。
 「しまなみ海道周辺を守り育てる会」だ。
 名は体を表すというが、まさに「しまなみ海道」周辺の清掃や植樹
 歴史や文化保全を進め、「守り育てる」。
 会員数は50名、小学生から高齢者まで活動に参加。
 地元企業の賛助もあり、支え手は300人をこえる。
 会長の村越定信さんにお話を聞いた。



よりよい街へ

四国と本州の往来を便利にした「しまなみ海道」。
 開通時から観光で訪れる人も増えた。
 この裏側にゴミの大量放棄があった事実を、皆は
 知っているだろうか。
 ペットボトル、雑誌は想定範囲、冷蔵庫やテレビ
 ベッドに自転車まであったというから驚きだ。
 「多くの人が来てくれるのに…」との嘆きが、地元住民を
 団結させた。
 はじめての清掃活動。何れ、10トラック10台分もあつた。
 協力者も増えた。最初は数人ではじめた活動の輪は、
 みるみる増えた。

努力の甲斐あって、ゴミは減った。
 しかし「0」にはならない。「0」になるまで活動をつづける
 と語る村越さんの目は熱い。



地域を見つめる

活動の広がり象徴するのが、歴史文化の保全
 活動。昭和41年に発掘された「相谷古墳」を
 顕彰している。地域への愛着が深まった証だ。
 40年放置され、踏み入る道さえなかったところを、
 草刈り、定期的に見学するようになった。

地元歴史家の
 協力を得て、保護
 や整備を進めて
 いる。
 「地域にこんな
 埋もれた見財産が
 あつたんだ。もた
 いない」そんな
 率直な思いが
 地元を動か
 している。



しまなみ海道周辺を守り育てる会
 会長 村越定信
 問合せ 近見公民館 0898-32-3258

おしげき 沖原彰, 清水聖奈

地域を歩み、地域に生きる村越さん
 に迫れた。気づき、考え、実行する村越さん
 のようになりたい。



平成26年度

个性的で魅力あるまちへ！市民が共におこすまちづくり事業



～補助団体が決定しました！～

去る6月5日(木)、公開プレゼンテーションが行われました。持ち時間4分間で、活動の目的や概要を伝えるのは至難の技です。皆さん、応募書類には書ききれなかった思い、実現への熱意をアピールしました。ドキドキの選考の結果、7団体が採択されました。

テーマや分野は多岐に渡りますが、身近なまちの課題解決に通じるものばかりです。活動には多くの支え手が必要です。積極的にボランティア参加してみてください。きっと新しい発見があるはずです。



今治スポーツ絆大会

ヨガ、ピラティス会
会長 渡辺 摩耶

誰もが参加できるスポーツ大会を通じて、家族の絆、友達の輪を深め、市民の体力増進・健康維持につなげる。



「郷土の偉人 矢内原忠雄」顕彰事業

「矢内原忠雄 顕彰」実行委員会
会長 新居田 大作

「教育界の父」と仰がれた矢内原氏の功績を、郷土において学習・顕彰する機会を設け、地域の文化振興に寄与する。



今治漁師町六次産業化推進事業

浜の夏祭り実行委員会
会長 河野 義光

再開発が進む今治港周辺において多くの市民や観光客が集い、漁業や魚食等、海の文化を体験し学べる機会を創る。



きくま再発見まちあるきマップ事業

ふれあいステーション菊間開設を考える会
会長 吉井 敏

菊間駅を基点とした、来訪者のニーズに合う住民目線の観光マップをつくり、菊間の風土・魅力の再発見につなげる。



吉海町津島の再生事業

特定非営利活動法人アクションアイランド
理事長 矢野 都林

人口十余名となる吉海町津島において、イベント開催、トレーラーハウス利用により田舎体験・帰省・移住増加に繋げる。



ハズミズム 2014

ハズミズム
代表 豊島 吾一

著名なアーティストによる質の高い音楽イベントを提供し、郷土を離れた若者にも今治の可能性をアピールする。



社会実験「街づくり協議会…町内会活性化を通じての街づくり」

街づくり協議会
会長 伊藤 雅章

安心安全な市民生活のために、町内会・自治会の持続発展的な活動を、松山市をモデルケースにシステム構築を目指す。

プレゼンテーションに耳を傾ける審査員。日頃は市民活動家として活躍する市民審査員もおり、現場に即した質疑応答が行われました。今治市を魅力的で暮らしやすいまちにする市民目線の活動。継続的な事業展開につながる事業を応援したいですね。



市民が共におこすまちづくり事業とは？



市民自らが企画・実施する継続性のあるさまざまなまちづくり事業に、今治市が1団体1事業につき最大50万円を助成する事業(市民活動推進事業)です。他団体との協働により、それぞれの特性を活かしてより効果的に事業(協働推進事業)を行うスタイルも対象となります(最大100万円)。

書類審査と公開プレゼンテーション審査を経て、事業の採択が決定されます。審査基準は、**公益性・自発性・団体の評価・費用対効果・事業の効果**の5つの項目から採点されます。

